

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月27日

### 【評価実施概要】

事業所番号	3870900150		
法人名	医療法人 康仁会		
事業所名	グループホーム さわらび		
所在地	四国中央市三島金子2-2079-8 (電話) 0896-24-5830		
管理者	尾崎慎也		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町3丁目8-15		
訪問調査日	平成19年6月26日	評価確定日	平成19年7月31日

### 【情報提供票より】 (19年5月2日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 11年10月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6 人, 非常勤 人, 常勤換算	6

#### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	1,000 円
敷金	有( ) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

#### (3) 利用者の概要 (5月2日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 88.2 歳	最低 76 歳	最高 93 歳

#### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり(な)	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり(な)	指定認知症対応型通所介護
届出	あり(な)	短期利用型共同生活介護
加算	あり(な)	医療連携体制加算

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から少し入った2階建てのホームで、母体病院や関連施設が隣接している。利用者が自分の希望を言葉で伝えられるため、職員はケアの際に必ず利用者の意向を確かめて、利用者主体の支援をしている。また職員は、利用者とのコミュニケーションをよく取り、お互いに穏やかな表情で、ゆったりと生活している。健康面でも24時間母体病院と連絡を取ることができるため、安心である。さらに、週3回のリハビリテーションで身体機能の維持も図られている。ホームでは年間行事計画を立て、季節の花を見に出かける等の外出を楽しんでいる。また、季節の花を食卓に飾ったり、壁には利用者と一緒に作成したちぎり絵を飾ったり、職員手作りの暖簾等をかけたりと明るい雰囲気となっている。

### 【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)  
 地域の人々との交流を深めるよう運営推進会議を開催しており、民生委員との繋がりも持っている。また、利用者の役割や楽しみごとの発見のため、全職員で利用者一人ひとりについて話し合い、利用者の希望に添った支援をしている。

#### ▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)

職員と管理者はサービス評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。自己評価項目を職員で分担し、それぞれの担当者と管理者が話し合っまとめてあげている。

#### ▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)

ホームについて知ってもらうため、認知症に関することやグループホームとはどんな所かということを提供し、ホームの現状報告をしている。参加者から質問をいただき、それに答えている。会議の進め方について地域包括支援センターの職員に相談し、助言を得ている。

#### ▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)

面会時に声をかけているが、意見はあまり出てこない。意見等出易くするため、家族会を開くよう声かけをしているが、家族等の都合が合わず開催はまだされていない。ホーム内に、母体病院の居宅介護支援センターが苦情相談の窓口になっていることを明示している。

#### ▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

母体病院の開催する行事に地域住民の参加もあり、交流がある。また、地域の秋祭りでは、近くの集会所からお神輿が出る時に利用者も見に行っている。病院のデイサービスでのふれあいもある。

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

—サービス向上への3ステップ—  
**“愛媛県地域密着型サービス評価”**

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- ※用語について
- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
  - 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
  - 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
  - チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム さわらび

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名 尾崎 慎也

評価完了日

平成19年6月26日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) ①安心・安全で健康的な生活をお手伝いします。 ②家庭的な明るい雰囲気の中での生活をお手伝いします。 ③暖かみのある希望に沿った生活をお手伝いします。  (外部評価) 前回評価を活かし、職員で話し合い、利用者・家族にも分かりやすい理念を作成している。また、パンフレット等で、地域に開かれた生活を送れるよう支援することを明記している。	※	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 管理者、職員一人一人、理念実践出来る様、努力している。  (外部評価) 「安心・安全」「明るく」「暖かみのある」という「あ」から始まる言葉で揃え、玄関、介護室に理念を掲示し共有している。理念の実践のため、利用者の思いを聞いてからケアをするよう心がけている。		管理者、職員が話し合える環境、時間を作り、理念を実践出来る様、努めたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ホーム便りを関連施設に表示したり関連施設の行事に参加したりしている。地域に対しては、運営推進会議時にホーム便り等付属している。家族にも、毎月送付している。	※	地域の人に理解されるように、取り組んでいきたい
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 外にベンチなど用意し、休んで頂けるように工夫している。時々おやつなどの、おすと分けをしている。	※	地域の方に、入居者さんの顔を覚えて頂き、親近感など、持って頂けるよう、努めたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 十分ではない部分はあるが、病院と併設なので、行事には参加している。  (外部評価) 母体病院の盆踊りや地域のお祭り等に参加し、地域の人々との交流がある。また、病院のデイサービスや関連施設とのつきあいもあるが、近隣住民との交流が少ない。	※	地域の行事ごとにも、入居者さんの体調を、考慮し積極的に参加したい。
				※	自治会に加入し、回覧板を通して情報交換したり、顔見知りになったりすることや近辺の散歩や買い物等で、近隣の方々との交流が深まることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) まだまだ、不十分であるが検討し、積極的にとりこんでいきたい。	※	運営推進会議で、積極的に地域の方と、関わりを持ち、地域の高齢者の方と交流を持てるよう、話し合いし、検討していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 前回の外部評価を活かし、職員一人一人改善出来る様、日々、努力し取り組んでいる。  (外部評価) 管理者、職員とも評価の意義を理解し、項目で分担し自己評価に取り組んでいる。前回評価を受け、改善計画を作成し、改善に取り組んでいるが、管理者主体の改善計画になっている。	※	職員全員で話し合っ改善計画を立てることで、職員一人ひとりが課題を共有し、改善に取り組むことを期待する。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 必ず質疑応答を行い、次回までに質問の回答を行っている。参加者の意見等も、取り入れサービス向上に努めている。  (外部評価) 参加者にホームについて知ってもらうことから始めているが、議題に苦慮している。地域包括支援センターの職員に、議題について助言を得ている。利用者と家族の参加者は毎回交代している。	※	評価結果を公表し、項目ごとに今後の取り組みについて参加者の意見を出してもらう等、具体的な内容で話し合い、サービス向上に活かしていくことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 十分とは言えない。  (外部評価) 市より派遣されたふれあい相談員2名が月1回訪問し、顔馴染みになっている。利用者の安全のための助言を得て改善に繋がっている。また、市の担当職員とも顔見知りになっている。	※	運営推進会議以外にも、交流を持ちサービスの向上に繋がりたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会に参加し、参加した職員が他の職員に勉強会を開き、説明等行っている。	※	
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 十分とは言えない。 事前調査時に、家族、本人の様子には、十分観察等行う。		勉強会に、積極的に参加し、事業所内では、絶対ないように、職員一人一人意識したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項説明書、運営規定を家族に1部お渡しし、ホームにも1部保存している。家族入居者にも、説明し印鑑をもらっている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃、入居者に相談や苦情を気軽に言える様働きかけている。また、伝えてくれたことをありがたく思いサービスの向上に、役立てている。		家族会の開催し、入居者の家族からの意見も、積極的に取り入れていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月、家族に「家族への手紙」や面会時に生活の様子や健康状態、金銭管理を伝えている。ホームの行事などは、ホーム便りを同封している。 <hr/> (外部評価) 毎月金銭報告に加えて、ホーム便りでホームの行事や利用者の暮らしぶりを伝えている。また、手書きで利用者の様子を書いた手紙を添え、個々に合わせた報告をしている。		家族会の開催し、入居者さんの家族からの意見も、積極的に取り入れていきたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族面会時には、必ず声掛けを行い状況説明を、詳しく行っている。家族の手紙を作成し送っている。 <hr/> (外部評価) 面会時に声をかけ、意見等出し易くしているが、あまり意見が出ないため家族会を開きたいと考えている。しかし、家族の都合が合わず開催に至っていない。ホーム内に苦情相談窓口を提示している。	※	家族会の開催を、入居者の家族にも、声かけや、手紙等で行っているも、家族さんが多忙な為か、開催はできていない。  年間行事に家族の参加を呼びかける等して集まる機会を設け、家族会を開催することを期待する。また、重要事項説明書等にホーム内と第三者機関の苦情相談窓口を明記することを望む。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、職員会議を行い、意見や提案を聞きサービス向上に努めている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 入居者の体調不要などで、病院受診時、職員の付き添いが必要で、ホームが手薄になる時は病院と併設なので、他の部署の方に見守りなどお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の移動時には、入居者には、十分説明を行って、他の職員が、ケアを行っている。  (外部評価) 利用者へのダメージを考慮し、なるべく職員の異動がないようにしている。やむを得ない異動の場合は前もって利用者に説明し、納得してもらっているため、今のところダメージは少ない。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 積極的に研修や、勉強会に参加し、職員一人一人スキルアップに努めている。  (外部評価) 母体病院の勉強会に参加し、応急処置を学習する等している。研修受講者が職員会で報告し、研修内容を共有している。内部研修としてマニュアルの再確認等勉強会を開いているが、外部研修への参加が少ない。	※	敷地内の病院の勉強会や、他病院が行っている勉強会にも参加したい。  管理者は外部研修会の情報を提示し、職員の経験に応じて受講計画を立てることが望ましい。職員の積極的な受講を期待する。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 同じ法人にホームが2ヶ所あり、意見交換や交流を積極的に行い、サービスの向上に努めている。  (外部評価) 同法人内にホームがあり、運営推進会議に順番で管理者や職員が参加し、情報交換を密にしている。また、行事での交流もある。	※	運営推進会議だけではなく、他のグループホームが行う勉強会に参加したり、こちらが、勉強会を開催したりしたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ会を行っている。職員同士で、働きやすい環境などについてなど、話合う機会を作っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) スタッフ会などで、話した内容を検討し良い意見の物を取り入れている。		職員一人一人勉強会に参加し、職員の質を向上して行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 日常の中で、それぞれが示すシグナルを、キャッチして、居室なので入居者の目線に合わせて傾聴し、わかりやすい言葉で伝え、コミュニケーションを図るようにしている。		耳の聞えが、悪い方がおられる為、本人に会え汗、言葉だけに頼らず、身不利など、体を使った、コミュニケーションにとりくんでいる。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会時に相談しやすい雰囲気づくりを心掛けている。遠方の家族には、手紙、電話での対応をして、安心して利用して、頂けるよう考慮している。	※	運営推進会議を、2ヶ月毎に開き、家族にも参加して頂ける機会を設けている。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 重度化に合わせて、他施設への申し込みなど、ができるよう支援している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 契約時に、本人に入所意志を聞いている。家族に協力を得て、外泊、外出を交えながら徐々に、グループホームの生活に馴染んで頂いている。 (外部評価) 母体病院や関連施設からの利用者については、担当者から情報を得ている。入居前に事前調査を行い、主治医と相談し入居を見極めている。入居後は、家族と協力し、面会、外出、外泊で対応している。		他の入居者、スタッフに馴染んで頂ける様、自己紹介や歓迎会を開き、他の入居者に名前と顔を覚えて頂いている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 洗濯のたたみ方や、朝食の味付けなど、入居者に教えてもらったり、レクリエーションなど、職員、入居者と、一緒に楽しんでる。 (外部評価) ケアに対し、利用者からねぎらいの言葉をかけられ、年長者ならではの知恵を授かっている。訪問日にも、水遣りホースの日よけに箱を掛けておくとよいと利用者が職員に教える場面があった。	※	
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人の訴えに合わせて、ご家族にも協力を依頼している。	※	家族会の開催を行う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 入居者さんの希望等で、家族さんに連絡など取りたいと、訴えがあると、電話、ファックスで連絡を取っている。		家族会を開催し、入居者さん、家族さん、職員で食事などし、入居者さんの日常生活をどのように、過ごしているか見てもらったり、話し合いなど行いたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 電話の取次ぎや面接時、ゆっくり過ごして頂ける環境作りに、努めている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 入居者一人一人の様子観察を行い、レクリエーションなどには、声掛けを行ったり、トラブルを事前に、防げるよう努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) まだまだ、不十分だが、検討し積極的に取り組んで行きたい。		スタッフ会などで、話し合い検討したい。年賀状や暑中見舞いなど、行っていきたい。

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランを立てる際に、入居者さん本人の意向を必ず聞き、それに合ったプランを作成し、職員が1つになりそのプラン達成に、取り組んでいる。  (外部評価) 自分の希望をしっかり伝えられる利用者が多く、比較的思いや意向を把握しやすい。扇いでいる利用者に隣の利用者が上着を脱ぐよう勧めている場面で、職員が暑いのか確認して、着衣の調節をしていた。	※	
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に、家族や知人などから、過去の具体的な情報を伝えて頂いている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) カンファレンス時に職員で入居者さんの状態を話し合っている。著しく変化がある方は、その都度プラン変更を行っている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) プラン作成時には、必ず本人さん、家族さんに意向や訴えを聞き、必要であれば、病院のPTにリハビリ内容等聞きプランを作成し、カンファレンス時に職員が集まり話し合い、必要であれば内容の変更を行っている。 (外部評価) 入居の際は計画作成担当者が介護計画を作成し、その後担当制にしている。利用者や家族の希望を聞き、カンファレンスで意見を出し合い、リハビリテーションの先生の見解も取り入れ介護計画を作成している。		カンファレンス時には、ホームの職員だけではなく、リハビリ職員等の参加も、検討したい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 退院後や大きく変化時には、期間にこだわらず必ずプラン見直しを、行っている。 (外部評価) 3か月に1度の見直しで、変化時には随時見直ししている。介護計画のサービス内容を1日ごとに評価することで、全ての利用者の介護計画を常に把握できるようになり、ケアや見直しに活かされている。		期間より前にプランの見直しを行っている、分かるようケアチェック表の、チェックの色を変えたりと、工夫している。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日、個別に記録している。個々の体調管理に気をつけて、申し送りなどで情報を共有している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 病院と連携を取り、受診、リハビリを充実している。 (外部評価) 母体病院へのリハビリテーションや受診の介助を行っている。また、病院のデイサービスでイベントがある時などに、利用者の希望を確認しながら参加支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 毎月のボランティア来所あり 防火訓練も、消防署からの参加あり行っている。 推進会議に、民生委員の方の参加あり。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 同法人内での、連携は取れている。	※	積極的に、他の機関と連絡を取れるよう努めたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 居宅支援事業者、デイサービス、訪問看護ステーション等と、連携している。	※	積極的に、他の機関と連絡を取れるよう努めたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医として、西岡病院が隣にあり定期的、緊急時にも、Dr・Nsに対応してもらえることができる。 (外部評価) 元々母体病院がかかりつけの利用者が多いが、他の利用者も入居の際の見極めで受診し、それを機に変更している。内科、整形外科については受診支援しているが、他科については家族の協力を得ている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 西岡病院にも、月1回、心療内科のDrの受診がある		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 敷地内に病院があり、24時間体制で看護師連携が取れている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院が敷地内にあり、医者・看護師と連携を取り、入院者の状態を把握している。他の病院に入院している方は、家族に電話等で、連絡取って把握している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ホームには、医療的管理が難しい為、本人、家族に相談し、意向など聞き、医スタッフと相談し合って方針を決めている。 (外部評価) 共用空間の広さが車いすに対応できないため、契約時にホームでは車いすの生活ができないことを家族に伝え、了解を得ている。契約時に重度化した場合の方針は決めている。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人、家族の意向を尊重し医スタッフと連携を密に取り、本人らしく生活が出来る様に支援している。		これまで以上に連携を取り合いたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人の不安などを取り除き、本人の希望があれば電話等で家族と連絡を取るなどし、少しずつでも、ホームの生活に馴染んで頂ける様、努力している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報、ロッカーで保存し、ホーム便り、カルテ等名前記入時には、イニシャル記入している。新しい職員が、入社、移動する時は、個人情報誓約書をかかわっている。 (外部評価) 「ホーム便り」や個人記録で他の利用者名を記載する時は、イニシャルにしている。また、個人記録は事務室のロッカーに保管している。誘導の声かけも利用者の誇りを傷つけないよう配慮している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人のわかる力に合わせ理解できるよう、声掛けを工夫し、自己決定でき、活気のある日常生活を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人その人のペースに合わせ、その人の希望に添えるよう援助している。  (外部評価) 関連施設の友人に会いたい、売店で買い物したい、病院の託児室の子どもに会いたい等利用者の希望に沿って支援している。自分で下着の洗濯をし、居室のベランダで干したい等の希望にも答えている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 近くのパーマ屋さんが、訪問してくれることもある。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 朝食は、ホーム内で調理している。昼、夜は病院の厨房から、タッパーで貰っている。盛り付け、配膳、片付けを、入居者と一緒に行っている。  (外部評価) 食事制限のある腎臓病や糖尿病の利用者に配慮し、昼食、夕食の副食のみ母体病院からの配食である。利用者は配膳や片付け、台拭き等を行っている。食事中は集中できるようテレビを消している。		食事の買い物も、積極的に行いたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 喫煙、飲酒されている方いない。おやつなどは、ホットケーキを一緒に作ったりと、工夫している。		本人が望む物を、ホーム内で飲食するだけでなく、外食等も検討している。
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄パターンを把握し、内服などで排泄コントロールをしている。排泄失敗時の素早い対応している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 基本的には、入浴は自由、高齢化が進み1人での入浴は、難しく入浴時間は決まってしまう。  (外部評価) 入浴時間は午前が多いが、入浴日は希望に沿っている。リハビリテーションのある日は疲れるため、ない日に入浴することが多い。長時間浸かっては健康を害する方のために浴室内に時計を設置し、工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個別の空間が持て、余暇を自由に過ごせる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人一人、役割を持ち生活リハビリとしても、ADL向上、活気のある生活を援助している。  (外部評価) 食器拭き、配膳、台拭き、新聞折り、洗濯物たたみ、居室や庭の掃除、草取り等できることをお願いしている。外出、散歩、買い物、おやつづくり、カレンダーづくり等、楽しみごとの支援をしている。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 敷地内の病院の、売店に付き添い買い物の援助等も、行っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 個人の希望も出来るだけ、受け入れ他にもホーム全体での、外出も計画し、行っている。  (外部評価) 月1～2回ぼたんやバラ等季節の花を見に出かけたり、病院の売店や関連施設の友人の所、関連施設裏手の不動明王のお参りに出掛けたりしている。	※	入浴時間を臨機応変に変更する等して、利用者が思いついた時に外出に対応できるよう、近隣で散歩コースを検討すること等を期待する。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族さんの協力により、お花見や行き慣れた美容院などに、行っている。ホーム全体でも、外出出来るだけ、援助している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望されると、電話をお貸ししている。家族さんから、手紙が届くと、本人さんでは、難しい場合は、代筆にて、返事している。		年賀状、暑中見舞い等の援助

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 玄関先に、花など飾り気軽に訪問出来る様、心掛けてている。自室に応接セットを置いている入居者さんもいる		食事制限がある方への、食べ物の差し入れが、あった時の対応
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束、行っていない。「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」は勉強不足である。		介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為の勉強会に、参加したい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関には、カギは掛けてないも、危険防止の為、家族の了解を得て、居室の窓にカギかけている。居室もある。 (外部評価) 日中は玄関に鍵をかけていない。人の出入りは、センサーが働きブザーで確認できるため、利用者が外出する時は対応できる。入浴や食事の準備中は説明し、納得してもらい、後から支援している。		玄関には、防犯ブザーを設置し、安全の確認を行っている。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は、入居者と出来るだけ、多く関わりプライバシーに、考慮し援助し、夜間は2時間ごと巡回を行い、物音が、あれば様子を見に行っている。		夜間2時間ごとに、必ず巡回を行っている。それ以外にも、物音等があれば、様子を見に行っている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 共同の洗面所の下に石鹸等、必要な物をカーテンで目隠しし、保管し必要な時に、出し入れしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) マニュアルが整備されており、緊急時には、西岡病院)のDr、Nsにいつでも、対応してもらえる。また、事故が発生した場合、報告書を作成し今後の対応を検討している。		全職員が、適切に対応出来る様、確認している。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 十分では、ないが検討し積極的に取り組んでいきたい。		病院職員に相談を行い、定期的に訓練が必要。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に、非難訓練を行っている。  (外部評価) 年1回消防署の指導のもと、綿密な避難計画を作成し、火災の避難訓練を実施している。度々消火器の場所、避難経路等マニュアル確認を職員会でしている。また、病院の協力も得られる体制である。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に説明を必ず行っている。体調不要の為、危険な場合も、必ずその都度、家族に連絡している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 異常があった場合は、西岡病院へ連絡しDrの指示を仰いでいる。家族への連絡。		日頃から、入居者それぞれの身体、病気の状態の把握に努めたい。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服中の身体の状態や変化を、観察記録し病院の連絡、相談を行っている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便の数、状態を観察を行い、調整剤とうで調整したりラジオ体操等を行い、腸内運動を促している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後口腔ケアの声掛けを行い、就寝前には入れ歯洗浄剤等で清潔を保っている。		就寝前に声掛けを行い、入れ歯洗浄剤を、使用している。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は栄養士が管理した物を、摂っている。食後は残量をチェックを行っている。食事の他にも、ティータイムを設けている。入浴後は、水分補給をしっかりと行っています。  (外部評価) 母体病院の管理栄養士が栄養バランスやカロリーを計算し、糖尿病や腎臓病の利用者に配慮している。食事量を主食と副食に分けて記録しているが、水分量については把握が不十分である。	※	食事に汁物をつけたり、入浴後に水分補給をしたり、ティータイムを1日3回とる等水分量の確保に努めているが、大まかな量の把握ができるよう記録をとることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) インフルエンザの予防接種は、行っている。対策は、病院のマニュアルに沿って、行っている。		外出後には、必ず手洗いうがいを行っている。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食器やまな板など、定期的にハイター除菌している。食材は、病院の厨房からもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りに、季節の花を植え家庭的な雰囲気を作っている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下には、季節の壁画を作成し、飾り食堂にも、季節の花を飾っている。  (外部評価) 壁面に季節の造花を飾り、ビーズや折り紙等を使って暖簾等をつくり、明るく暖かい雰囲気になっている。畳スペースや玄関のベンチ等休息の場を設けている。心の拠り所として神棚が祭られている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂には、畳のスペースや、廊下、玄関に椅子を設置している。ロビーには、TVや応接セットあり		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の方に依頼し使い慣れた物を活かしている。  (外部評価) 利用者と職員の手作りで季節感のあるカレンダーが掛けられている。テレビ、応接セット、押し車、ポスター等思い思いの物を持ち込んで、自分らしい居室を作っている。		入居前の契約時に家族には、説明し馴染みの家具を持って来てもらっている。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)、 その日に応じた、湿度調節や換気を行い加湿器も、利用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 高齢で歩行不安定で、転倒等のリスクが多い為、安全な位置に、椅子を置いたり、エレベーター使用を促すよう心掛けている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 安全に円満に生活し不安を取り除ける様に、利用者の目線で、表示物等を混乱しなくて良いように、活用している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 草花が好きな方や、外気浴の為のスペースや創作的な物に、興味のある方等のために、施設内外を工夫したスペース作りをしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	ケアプラン作成時に、本人の思いや願い、暮らし方の意向を聞いている。カンhアレンス時に全職員に伝えている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) 1 毎日ある ②数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	昼食時、入居者さんと同じ食堂で、食事を取り、会話などしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者さんは、高齢の為食堂で、テレビ鑑賞されていることが、多い。 本人の意見を出来るだけ、取り入れている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	難聴の方が多く声掛けに工夫している。入居者の趣味など、日常生活に取り入れてている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	本人の買い物等の外出希望があると、家族に連絡し外出される方や、週末に外泊され、その時に希望の場所に、いかれたりされている方もいる。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	病院の敷地内に、ホームがある為、日中夜間問わず、ドクターの受診が可能
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	体調不良時や、本人の訴え時には、敷地内の病院に診察がで出来る。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ケアプラン作成時に、必ず家族の意見を聞いている。その時に困っている事や不安な事を聞き、解決出来る様、プランを作成している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	ふれあい相談員の方が、月に1回面会あり。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議の参加者の方は、事業者の理解され、入居者さんに紙芝居を、読んでくれる約束などしてくれる。
98	職員は、活き活きと働いている	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	月に1度カンファレンスの後に、スタッフ会を開催している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外出を希望される事があるが、なかなか実行ができていない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	ケアプラン作成時、面会時に家族にサービスの苦情等をお聞きするも、訴え等はない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

病院の敷地内に、グループホームがある為、365日24時間、緊急時対応ができ、専門職のリハビリ等も受けられます。月に1回ペースで外出し、季節を感じられるように努めています。

ケアプランは、本人、家族に今後の意向や、本人の意志を尊重し、家族、職員、が一丸となったサービスを心掛けています。